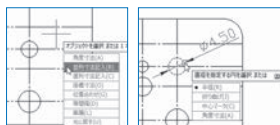


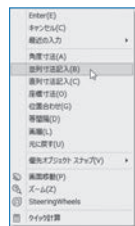
本書の一部ページに誤植がありました。ご迷惑をおかけし大変申し訳ありません。正しいページイメージを添付してありますので、こちらをご参照ください。点線で囲んである箇所が訂正箇所です。
 なお、原寸のデータはこちらの URL からダウンロードいただけます。
<http://www.socym.co.jp/book/992>

● p.497

- ① ダイナミック入力をオンにします。
- ② (水平・垂直寸法記入)「オブジェクトを選択 または:」に対して、上側の線分にカーソルを移動します。
- ③ 「…線分を選択」に対して、線分をクリックしてから、寸法線の配置点をクリックします。垂直線分の場合も同様にして寸法記入できます。
- ④ (直径・半径寸法記入)「オブジェクトを選択 または:」に対して、円周上にカーソルを置きます。表示メッセージが直径関連でない場合は、ダイナミック入力などから [直径] オプションに切り替えます。
- ⑤ 「…円を選択」に対して、円をクリックしてから、寸法線の配置点をクリックします。
- ⑥ (平行寸法記入)「オブジェクトを選択 または:」に対して、距離を示す起点2点を順にクリックしてから、寸法線の配置点をクリックします。
- ⑦ (角度寸法記入)「オブジェクトを選択 または:」に対して、ダイナミック入力などから [角度寸法] オプションを選択します。
- ⑧ 「円弧、円、線分を選択:」に対して、1番目の線分をクリックします。
- ⑨ 「角度の2番目の…」に対して、2番目の線分をクリックします。
- ⑩ 寸法線の配置点をクリックします。
- ⑪ スマート寸法を終了するには、[Esc] キーまたは [Enter] を押します。



(ダイナミック入力によるオプション選択例)



(右クリックによるオプション選択例)

● スマート寸法の主なオプション

コマンド: **dim** オブジェクトを選択 または: 1. 本目の寸法補助線の配置点を指定 または [角度寸法(A)] [並列寸法記入(B)] [直列寸法記入(C)] [座標寸法(O)] [位置合わせ(G)] [等間隔(D)] [等間隔(E)] [オフセット(O)] (コマンドライン)

図形要素	カーソル近接時の動作	切り替え可能な寸法タイプ
オブジェクトを選択		寸法記入したい図形上にマウスを近づけると、図形要素に応じた寸法タイプで寸法線がプレビュー表示されます。
1本目の寸法補助線の起点		2点を選択すると、長さ寸法が記入されます。
[角度寸法(A)]	([角度寸法記入] コマンドと同じ)	3点間の角度または2つの線分間の角度を示す角度寸法を記入します。
[並列記入(B)]	([並列寸法記入] コマンドと同じ)	直前の寸法または選択した寸法の1本目の寸法補助線から、長さ寸法、角度寸法、または座標寸法を記入します。既定では、最後に記入した寸法が基準寸法として使用されます。
[直列記入(C)]	([直列寸法記入] コマンドと同じ)	選択した寸法の2本目の寸法補助線から、長さ寸法、角度寸法、または座標寸法を記入します。
[座標寸法(O)]	([座標寸法記入] コマンドと同じ)	座標寸法を記入します。
[位置合わせ(G)]		複数の平行な寸法や、同心の寸法、または同じデータムの寸法を、選択した基準寸法に位置合わせします。
	基準寸法:	寸法の位置合わせ基準として使用する寸法を選択します。
	位置合わせする寸法:	基準寸法に位置合わせする寸法を選択します。
[等間隔(D)]		長さ寸法または座標寸法のグループの間隔設定方法を指定します。
	[等間隔(E)]:	選択された3つ以上の寸法を等間隔に配置します。
	[オフセット(O)]:	すべての選択された寸法を、指定したオフセット距離で配置します。
[面層(L)]		指定した面層に新しい寸法を割り当て、現在面層に優先させます。現在面層を指定するには半角ピリオド(.)を入力します。
[元に戻す(U)]		最後の寸法操作を取り消して元に戻します。

● p.593

- (リボンLT 2010～2012) [表示] → [ビューポート] → [名前の付いたビューポート]
- ③ [新規ビューポート] タブをクリックしてリストから「4分割: 等分」をクリックします。
 - ④ ビューポートの間隔を「5」と入力して、[OK] ボタンをクリックします。



COLUMN

◆ (LT 2009 リボン) [表示] → [ビューポート] → [ビューポート管理] を選択します。

POINT

◆ 管理ウィンドウを見ながら簡単にレイアウト領域を2分割、3分割、または4分割してそれぞれにビューポートを自動的に設定できます。

- ⑤ 画面いっぱいレイアウトする場合、(フィット) 「F」 [Enter] と入力します。または対角2点をクリックします。

コマンド: **VPOR**
 コマンド: **VPOR** 1 番目のコーナーを指定 または [フィット(F)] <フィット> F

WARNING

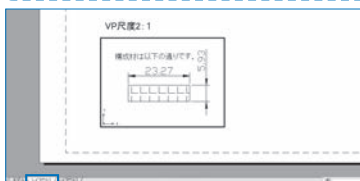
- レイアウト画面で用紙の色や用紙外側の背景色を変更するには?
- ① レイアウト用紙の色を変更できます (LT 2015 以降)。同様に用紙背景色 [用紙背景] も変更できます。
 - ② [オプション] ダイアログボックスを表示して、[表示] タブの [色] ボタンをクリックします。
 - ③ [コンテキスト] 欄で [シート / レイアウト] を、[インターフェース要素] 欄で [背景] を選択します。
 - ④ [色] 欄で色を選択し、[適用して閉じる]、[OK] ボタンをクリックします。

● p.644

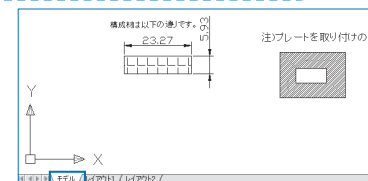
空間変更

- ⑤ (LT 2013以降) 「目標ビューポート」に対して、もう一度 [Enter] を押します。
- ⑥ 図形と文字がモデル空間に移動し、モデル空間に合わせて自動的に拡大縮小されます。

外観を維持するために、オブジェクトは 0.25 倍に尺度変更されました。
 例: ここにコマンドを入力



移動結果 (ペーパー空間)



移動結果 (モデル空間)

UCS

第1章 AUTOCAD LTの基礎

第2章 図面の開始

第3章 表示の操作

第4章 作図補助機能

第5章 図形・文字の作成

- (メニューバー) [ツール] → [UCS] → [原点] を選択します。(リボン) [表示] → [UCS] → [原点]
- 新しい原点位置(A)をクリックするか、座標を入力します。

現在の UCS 名: *名前なし*
 UCS 原点を指定 または [面(F)/名前付の付いた UCS(NA)/オブジェクト(OB)/直交(P)/ビュー(V)/ワールド(W)/X/Y/Z/Z 軸(ZA)] <ワールド>: _o
 UCS 新しい原点を指定 <0,0,0>:

- 指定した位置に UCS 原点 (0,0) が定義されます。座標アイコン表示も位置が移動します。

◆ 既存の図形や点を利用して UCS の位置や回転角度を定義するには？

例) 既存の線分を参照して、新しい UCS を原点 B に定義すると同時に UCS を線分方向に合わせて回転させます。

UCS アイコンをクリックして軸グリッド「●」を移動することで UCS 軸を回転できます。バージョンにより機能や表示が異なります。

- [ツール] → [UCS] → [オブジェクト] を選択します。(リボン) [表示] → [UCS] → [オブジェクト]
- 参照したい図形(線分)をクリックします。

現在の UCS 名: *名前なし*
 UCS 原点を指定 または [面(F)/名前付の付いた UCS(NA)/オブジェクト(OB)/直交(P)/ビュー(V)/ワールド(W)/X/Y/Z/Z 軸(ZA)] <ワールド>: _ob
 UCS UCS を位置合わせするオブジェクトを選択:

- B 点に UCS が定義されます。カーソルも UCS に合わせて傾いて表示されます。

POINT

- ◆ クリックした線分の方で新しい UCS の X 軸が定義されます。線分上でクリックした点に近い方の端点が新しい UCS 原点として定義されます。
- ◆ 回転した UCS では、グリッドや直交モードなども傾いて表示されます。

◆ UCS の位置を元に戻すには？

- (メニューバー) [ツール] → [UCS] → [ワールド] を選択します。(リボン) [表示] → [UCS] → [ワールド]

COLUMN

- ◆ UCS アイコンを選択後、右クリックするか、アイコンの■マークにカーソルを合わせて、メニューから [ワールド] を選択しても元に戻せます。

外部参照

第1章 AUTOCAD LTの基礎

第2章 図面の開始

第3章 表示の操作

第4章 作図補助機能

第5章 図形・文字の作成

WARNING

◆ 参照中のファイルは、複数のユーザが同時にそのファイルを開かないようにロックされます。別のユーザが図面ファイルを使用している場合は、インプレイス参照編集できません。

ネジ部品図をインプレイス参照編集する例

COLUMN

- ◆ (メニューバー) [ツール] → [外部参照/ブロックのインプレイス編集] → [インプレイス参照編集]、または参照を右クリックしてメニューから [インプレイス外部参照編集] を選択しても編集できます。
- ◆ (メニューバー) [ツール] → [外部参照/ブロックのインプレイス編集] → [参照編集を保存] を選択しても保存できます。
- ◆ 現在の図面から選択されたオブジェクトは「作業セット」となり、既定では、その他のすべてのオブジェクトはロックされてフェード表示されます。
- ◆ (リボン/メニューバー) [作業セットに追加] または [作業セットから除去] を使用して、現在の図面から既存オブジェクトを追加または除去できます。
- ◆ 「作業セット」とは、現在の図面内の外部参照またはブロック参照から追加または除去されたオブジェクトセットです。変更が再保存されるときに、参照に追加または除去され、現在の図面から削除されます。

● 外部参照の関連コマンドのまとめ(バージョンにより使用可能なコマンドは異なります)

コマンド名	コマンド名	短縮名	概要説明
[アタッチ]	ATTACH		(LT 2010以降) 外部参照、イメージ、アンダーレイ(DWF, DWFx, PDF, DGN ファイル)を、現在の図面に挿入します。
[外部参照アタッチ]	XATTACH		DWG ファイルを外部参照として挿入します。
[DWF アタッチ]	DWFATTACH		DWF または DWFx ファイルをアンダーレイとして現在の図面に挿入します。
[PDF アタッチ]	PDFATTACH		(LT 2010以降) PDF ファイルをアンダーレイとして現在の図面に挿入します。
[DGN アタッチ]	DGNATTACH		DGN ファイルをアンダーレイとして現在の図面に挿入します。
[イメージアタッチ]	IMAGEATTACH		イメージ ファイルを挿入します。
[外部参照パレット]	EXTERNAL REFERENCES	XR	[外部参照] パレットを表示して、図面ファイルの外部参照リンクを管理します。
[外部参照を開く]	XOPEN		(LT 2010以降) 選択した図面参照(外部参照)を新しいウィンドウで開きます。
[インプレイス参照編集]	REFEDIT		(LT 2010以降) 現在の図面内のブロックまたは外部参照を抽出し、直接編集します。
[個別バインド]	XBIND	XB	外部参照図面に関係付けられている、ブロック・寸法スタイル・画層・線種・文字スタイルなどの、名前付のオブジェクトを個別に現在の図面に取り込みます。
[外部参照クリップ]	XCLIP		選択した外部参照またはブロック参照を、指定した境界で切り抜きます。
[クリップ]	CLIP		選択した外部参照、イメージ、ビューポート、アンダーレイ(DWF, DWFx, PDF, DGN)を、指定した境界で切り取ります。